

2024 年度 第 9 回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

日 時 2025 年 1 月 27 日(月)10:05～10:40

会 場 本部棟大会議室(オンライン併用開催)

出席委員 田中理事長、星副理事長、磯田理事、伊藤理事、岡島理事、戸所理事、佐野監事、中野監事

出席教職員 林副学長兼学部長、田口学長補佐兼専門職連携教育研修センター長、高柳調整幹兼総務担当部長、篠原企画・情報担当部長
【オンライン】
金村研究科長、延原情報センター長、東高等教育開発センター長、常盤学生支援センター長、濱口研究開発センター長、北畠地域
連携センター長、田中共通教育科長、國澤看護学科長、山崎理学療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、廣渡健康開発学科長、
山口高等教育開発センター副センター長、小林研究開発センター副センター長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、小原
教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長、中野研究・地域連携担当部長

議 事 概 要 ○:学外理事、監事 ●:学内理事、事務局

【議事録確認】

田中理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

【議決事項】

第19号議案 教員の採用について

資料に基づき、星学長から説明した。案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○5 月 1 日採用を目指すとのことだが、今回の公募は急に退職が決まった教員の補充か。

●今回の公募は、教授の定年退職に伴う一連の採用手続きの結果、本学助教が4月1日付けで准教授に昇任することとなり、欠員が生じ

ることになった助教のポストを補充するものである。

○採用手続きに関する期間は最短でどれくらい短くできるのか。

●1つのポストに対し、採用には1～2か月程度が必要である。今回は、教授の1名が今年度末で定年退職するため採用手続きを開始したところ、教授・准教授のポストがそれぞれ昇任のかたちで補充されることとなった。結果として、教授・准教授・助教の3つのポストの採用手続きが必要となり、採用が5月1日見込みとなったものである。

○教員採用について、理事会が月に1回、固定の日付で開催されている影響はあるか。

●理事会の議を経て採用計画は動く。事務手続きの都合上、直近の理事会に諮れない案件は次の理事会となるので、そういった場合は影響がある。

○この案件について、書面審議とすることはできないのか。

●不可能ではないと思われる。しかしながら、こういった案件であれば書面審議とするか等、理事会の総意が必要になると思われる。教員人事は大学運営の根幹でもあるため、理事が一同に会する理事会の場でご審議いただきたいと考える。

○例えばオンラインであれば手軽に関係者が集まることができる。または、メールで連絡をいただき、異議のない旨を回答するという方法もある。学生にとっては教員が充足していることが重要だと思うため、定例の理事会以外にも、臨時の理事会やオンライン、書面、メールといった方法での審議を考えてよいと思う。

こういった場合をその対象とするかは、事務局で議論いただき、理事会で承認すれば良いのではないか。

○今回、昇任する助教に対し、昇任の決定通知はいつ出しているのか。

●去年の12月25日である。

○本件では、直近の理事会が今回の理事会であったということで了解した。

【報告事項】

(1)次期学長の選考結果について

資料に基づき、高柳調整幹兼総務担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

○本学は学生の大半を女性が占めていることから言うと、女性の学長の誕生は良い結果を生むと思う。現在も星学長がリーダーシップを発揮していらっしゃるが、同様の活躍を期待する。

ただ、今年度に学長選考が行われている旨の共有が十分になされていなかったように思う。学長選考は大学運営において非常に重要である。理事会への情報共有をお願いしたい。

○学長選考を行うにあたり、理事長の考え等を一切入れずに行われるのが通常なのか。普通の組織ではあまり考えられないように思う。

●学長の選考は、経営審議会及び教育研究審議会を構成する者の中から当該審議会によって選出された委員によって構成される学長選考会議にて実施され、理事長は本選考会議に参加することができない。これは法律に規定された事項である。

具体的な選考方法は各大学によって異なるが、本学では、学長選考会議の委員のみが学長候補者を推薦することができると規定されている。そのため、現在の規程では候補者の選定にあたり、理事長の意思を反映させる仕組みはない状態である。

○理事長と学長の業務の住み分けとしては、理事長が経営面、学長が教学面に関する最終的な判断を行うイメージか。

●本学においてはそのイメージに近いと思われる。また、法律上は理事長と学長を兼ねることも想定されている。

○現在の運用は、過去からの経緯や議論を重ねた結果だと思う。ただ、民間的な視点だと、教学と財政は背中合わせの関係にあると思う。そのような中で、理事長が学長の選考に全く関与しないということには違和感を覚える。

●学長選考の在り方については、今後、大学としても検討していく。

以上